

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 沖郷1号館)

事業所番号	0691900120		
法人名	株式会社 カインド・ホーム		
事業所名	グループホーム沖郷		
所在地	山形県南陽市若狭郷屋797番地の3		
自己評価作成日	平成30年6月18日	開設年月日	平成29年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「やさしく・しんせつに・ていねいに」介護サービスの提供

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 7月 12日	評価結果決定日	平成 30年 7月 30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公的機関や住宅が立ち並ぶ環境に恵まれた場所に開設して一年を迎えました。当初は1号館のみで、2号館は今年の2月にオープンしようやく2ユニットとして稼働し、職員は試行錯誤しながら、近隣住民の理解を得て落ち着いてきたところです。広い敷地に平屋造りで明るく色調にも配慮が見られ、ゆったりとしたリビングで利用者は思い思いに過ごしています。すぐ近くには同法人の住宅型有料老人ホームやデイサービスがすでに営業を始めているため職員はなにかと心強く、協力関係が構築され2年目に踏み出している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、日々少しでも近づけるように心掛けている。	カインド・ホーム全事業所の共通理念として「やさしく・しんせつに・ていねいに」を掲げている。職員は利用者に寄り添い、サービス提供場面を振り返りながら取り組んでいる。また介護職をはじめでの職員も多く、丁寧な指導で理解に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや市で行われているイベントの参加を心掛けている。外出などはできているが、近隣地域との交流はまだ少ない。	開設して一年を迎えたばかりで近隣との付き合いは深まっていないが、運営推進会議では地区長の声掛けで祭り子ども獅子が休憩場所として立ち寄り、利用者は触れ合うことができ喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催の際に会話や質問に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、地区長、民生委員、家族会の代表をお招きして二か月に一度開催している。ご意見やアドバイスをたくさん頂き一つ一つ対応しています。	開設して日が浅いが運営推進会議はスムーズに立ち上がり、地域の役員の方から多くの意見をもらい運営に活かしている。行事はスライドを使って報告し、好感をもって見られている。今後は地域住民の認知症に対する理解と事業所への協力が得られる様に連携を図っていききたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから密に連絡をとり相談報告を行い、運営推進会議にも出席していただき、関係を築いている。相談報告も実施している。	市の地域福祉課とは日頃より連絡を密にし、毎月の状況報告を行っている。運営推進会議の年間スケジュールを前もって案内し、出席しやすいよう配慮している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束は行っていない。鍵については夜間帯や職員一人の早朝、夜に施錠している。また全員ではなく、必要な方のみ鈴やセンサー等で対応している。一人一人が自由に動けるよう努めている。	身体拘束があってはならないこと、何が拘束にあたるかなど職員は研修等で学び共有している。目や足が不自由で夜間時の転倒が危惧される為、家族等との話し合いによりセンサーや鈴で対応している利用者がある。見守りながら利用者の自由を尊重している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ行き、他の職員にも伝達講習を行い、職員間での統一した対応や知識を深めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当ケースはないが、必要性があれば家族への説明を考えている。また、各関係者に情報提供出来るようにしておく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の際に退所事由等の説明を行っている。またやむを得ない状況で入院になった場合でも十分に説明をし、主治医の意見等を踏まえ、スムーズに移行出来ている。利用者家族が聞きやすい雰囲気づくりにも気を付けています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催時や、面会時・電話等で近況報告や意見・要望に応じ取り組んでいる。	利用者家族は頻回に訪問しホームでの様子を見て安心している。意見や要望を聞きながら互いに情報を交換して信頼関係を築くよう取り組んでいる。担当職員は毎月請求書と一緒に手紙に日頃の様子を書き添えて報告している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期でのグループホーム会議の実施はあるが、少人数の為、業務もありなかなかできていない。個別にその都度意見を聞き入れ皆で試行するなどを行っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は管理者を通し、毎月本社に報告している。職員の家庭環境や事情を考慮して勤務形態や希望休等の相談に応じ、安心して働けるようにしている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量にあった研修に参加し、職員間で情報共有している。	職員は意欲的に資格取得に取り組んでおり、すでに数名が初任者研修を修了し、次のステージを目指している職員もいる。また経験等を考慮して外部の研修に参加し、伝達研修で共有している。新人職員は働きながら現場で直接先輩職員から技術等を学んでいる。	新人が多いこともあり、利用者一人ひとりにどう向き合うか、職員が参加しやすい時間帯等を活かして事例検討会や研修の機会を増やし、質向上に繋がるよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や交流会を通じ、意見・情報交換を行いながら、ホーム外の職員の意見も取り入れ、サービス提供の質の向上に努めている。	他地区にある同法人のグループホームと交流し、取り組みや認知症による行動障がいへの対応策など情報交換・収集を行い職員は共有し支援に活かしている。また近隣にある同法人の事業所から職員が助けに入るなど協力関係を築いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との面接を行っており、不安なことを傾聴し、出来る限り安心できるサービス内容を取り入れるようにしている。話しやすい環境になるように心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前になるべく多くの情報を集め現時点での問題点の把握をし、面談等で家族の不安や要望を多く聞ける機会を作り、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活習慣が継続できるよう、本人が必要としている一番のニーズを把握し、必要に応じて他のサービス利用ができるよう、状態の観察や職員間で情報共有に努めている。。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができること、できそうなことを一緒に行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に情報交換し良好な関係を築くようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の方が気軽に面会に来て頂けるような環境づくりにも取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごしてもらい関係づくりをする中で職員が中に入りながら行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所の際には面会に行ったり、家族からの不安や相談をいつでも受けられるように体制をとっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の意向確認や日々の会話、生活歴や価値観等を大切にし、意向に沿えるよう配慮している。それらの情報は職員間で共有し、ケアに繋げるよう努めている。	認知症や精神疾患による暴力的な行為がある時なぜなのか、本人の思いはどうなのか職員は話し合い、デイケアを活用して改善がみられた利用者もいる。自分の思いをなかなか伝えられない利用者や日々変化する体調に理解を示し、利用者に寄り添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報収集や日々の記録を基にこれまでの暮らしの把握に努めている。また、きになることはその都度家族に確認したりしている。情報は職員全員が周知できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、バイタルチェック表や排泄チェック表等毎日記録している。日々の会話や行動からも精神状態や、本人の出来る事の見極め、新しい現状把握に努め情報の共有をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一回のモニタリング、課題が出た場合は担当、ケアマネ中心に意見交換している。また、ミーティング時にも同様。	担当職員を中心に変化を見ながら日々の記録を大切にしている。大きな変化がない場合は今出来ることを継続し、またできそうなことには少しでも取り組んで貰うなど、生活リハビリを中心に個別ケアを重視したプラン作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子を日々観察、記録に残し職員全員で共有し、現状の把握に努めている。変化や課題があるときには話し合いを随時行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>				
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に希望するかかりつけ医の情報を取り、出来る限りホームで受診対応している。通院困難な方には往診をしてもらっている。受診報告書を記入しスムーズに受診が出来るよう情報提供を行っている。必要に応じて電話や同行を行っている。</p>	<p>従来のかかりつけ医を継続する方や往診のある医療機関に変更する方など希望に沿って受診している。体温や血圧、体調、経過状況などを記載した受診報告書で医師と連携を図り、健康状態の把握と管理に努めている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師不在。事業所の看護師に医療面での相談行う。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は、面会や電話等で看護師、家族から状況を聞く等して把握に努めている。変化があれば主治医に指示を仰ぎ、紹介状等を書いて頂き、専門医を受診している。退院時も退院カンファレンスに参加し、情報共有に努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看護師不在のため、実際に終末期に近くなった場合、経口摂取ができる状態までを目途に、看取りは行えない事を家族に伝えている。</p>	<p>重度化や終末期にあたっては、契約時に事業所で出来得る支援について説明し承諾を得ている。また、状態の変化に基づき主治医と連携して家族等と話し合いをもち、今後の方針を共有しながら支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在急変時の前例はないが、救命救急講習を受けており、急変や事故発生時に備えている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。運営推進会議にて協力を依頼している。	10月と2月、避難誘導、初期消火、通報の訓練を実施して運営推進会議でその様子をスライド上映し意見をもらっている。また夜間緊急連絡網による召集訓練(予告なし)も行い危機管理体制を強化しているが、訓練の講評は口頭に留めている。	年2回の避難訓練に加えて召集訓練も行い、マニュアルも整備して防災意識を高めている。今後は夜間想定なども含め、あらゆる災害を想定した訓練や課題を記録に残し次回に繋げるなど更なる取り組みに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合わせた声掛けや対応ができるようその方をよく知り、敬意をもって接するようにしている。	認知症の理解と信頼関係を深めることが大切であると捉え、節度ある接遇に心がけている。職員の関わりで気になる場面があった時は管理者がその場で助言してケアの質向上を図っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話していただける信頼関係づくりを心掛け、本人の思いを大切に希望に添えるようなケアをしている。自己決定できるよう、待つ姿勢を心掛けている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせた支援を心掛けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や本人の好みに合わせた服装や髪形ができるよう、選ぶ事やおしゃれができるよう努めている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望を取り入れながら、冷蔵庫を見ながら一緒に献立を考えたり、買い物にも同行している。	差し入れやその日の特売などを活用しながら手作りにこだわってユニットごと調理している。また、夏祭りや敬老会、芋煮などの行事食にも自慢の料理が並び、正月にはきりたんぼの雑煮を提供するなど安全に配慮した工夫もみられ喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った形状、量、物の提供している。また、3食記録し体調面の様子観察も行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやうがいなどの口腔ケアの実施の声掛け、支援を行っている。夜間は義歯洗浄消毒の支援を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録チェック表の使用。声掛けが必要な方には誘導したり、失禁が多い方は回数や、時間を見て検討したりしている。夜間オムツ対応の方も巡視時の状態を見て誘導などしている。	自立の方が多く、さりげない見守りや介助で排泄状況を確認しながらチェック表に記録してレベルアップに繋げている。夜間ポータブルトイレを使用している方もおり、トイレでの気持ち良い排泄を大切にしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日2回の体操や、食事面での水分摂取、繊維質や乳製品の摂取などの面からも工夫している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否のある方にもなるべく週2回は入浴して頂けるよう、誘導タイミング見計らった声掛けをしている。拒否の在る方については職員同士で情報交換し工夫している。	受診前日や排泄で失敗があった時も入浴を勧め清潔保持に努めている。できるところは自分で洗ってもらい、状態の変化や洗い残し、皮膚疾患などを観察して職員との会話を楽しんでいる。身体状況によってはリフト浴で対応している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた環境を整え、また体調面も考慮し臥床すすめたり、状態に合わせて声掛けしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要な方には介助行い誤薬防止、服薬確認を行っている。変更時皆に申し送りしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとのイベントや花見・ドライブの実施。日常では日々の中で自分が受け持つ仕事としての張り合いを持たれている方もいる。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族地域の方を巻き込んでの支援はまだまだできていないと思う。個別では外出や買い物などしている。	ユニット合同の花見ドライブは車椅子も乗れる福祉車両で2回に分けて出かけ、後日スライドショーでも楽しんでいる。買い出しや受診帰りに利用者の実家に立ち寄るなどの取り組みはしている。	外出したがる利用者もいる中で、個別支援として利用者一人ひとりの行きたい所、馴染みの場所など要望を取り入れた外出支援で、喜びや満足に繋がるよう期待したい。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際、好きなものを選んで買って頂き、立替請求している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話での対応で、家族と常に連絡が取れる状況となっている。手紙を頂いたら返事を書いてみたらと進めたりしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な温度調節や清潔を保つよう心掛けている。季節感の演出などはまだまだ物足りなさを感じている。	広いリビングと両ユニットをつなぐ直線廊下は歩行訓練等の生活リハビリに活用し、対面式のキッチンや居室が見渡せる職員の待機所など見守りに安心な造りとなっている。華美にならない程度の装飾やピンク系のやさしい色合いを基調に、温か味のある居心地良い共用空間にしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置などで思い思いに過ごせているかは不安である。また、居室でテレビを見たり、好きなことが出来、自分の時間が持てるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>慣れ親しんだ家具等を置いたり、使い慣れたものなどを持参して頂き、使いやすいよう配置し、落ち着いて居心地良く過ごしてい頂けるよう工夫している。</p>	<p>ベッド・クローゼット・呼び出しボタンが常備され、寝具やテレビ、家具、椅子などは持参してもらい家族等と居室でゆっくり過ごすこともある。夜間は定時巡視と共に体調に合わせたこまめな見守りで安心に繋げている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々のADLを確認し、自立支援を心掛け、事故の無いよう、安心安全な生活が遅れるよう支援している。</p>	/	/	